

水野由紀 Yuki Mizuno

可憐で凛とした芯のある音楽性を持ち、絶え間なく成長を遂げている若手実力派チェロ注目株！



©Yoshinori Kurosawa

桐朋学園大学在学中より堤 剛氏の薫陶を受け、同大学研究科を修了、顕著な飛躍をみせる新進気鋭の音楽家・水野由紀。

各分野でキャリアを着実に積み上げており、宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭をはじめとする国内有数の音楽祭オーケストラへの参加、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンや東京・春・音楽祭、サントリーホールや横浜みなとみらいホールでのガラ・コンサートへの出演、近年では、ヤマハホール・コンサート・シリーズにおいて、恩師堤剛氏との共演企画や、チェリスト、古川展生氏プロデュースのチェロ・アンサンブルに日本の若手チェリストを代表する一人として出演する等、同世代では一目置かれている出色のチェリストです。また飯森範親氏指揮・日本センチュリー交響楽団と「ハイドン：チェロ協奏曲 第2番」をと共演し、ソリストを務めた他、関西フィルハーモニー管弦楽団にゲスト首席として度々招かれている等、大小様々なプロジェクトで引く手数多のオファーをいただき、真摯な演奏活動を直向きに続けています。

また、2012年にはオクタヴィア・レコードからCDデビュー。メンデルスゾーンのチェロ・ソナタ第2番をメインに小品集をあわせた正統派の選曲で、クラシック・ジャンルの中でも好調なセールスを達成しました。2013年に2nd CD「アルペジオーネ・ソナタ」を、2015年には3rd CD「ハイドン：チェロ協奏曲 第2番／ブルッフ：コル・ニドライ」をリリース。ともに各音楽誌・新聞に取り上げられ、大きな反響を呼びました。その他、ヤマザキナビスコ「プレミアムクラッカー」のCMでヴァイオリンの宮本笑里さんと出演し、フジテレビ「MUSIC FAIR」、「FNS歌謡祭」やBS-TBS「日本の名曲アルバム」等の番組出演を果たすなど、活発なメディア活動も行っています。

その演奏は、たっぷりとした歌心としなやかな技巧を兼ね備えており、スケールの大きな音楽で期待を寄せられている将来性豊かなスター候補生です。今後脚光を浴びる可能性大の女流チェリストの動向に、ぜひご注目ください。

① ソロ・リサイタル [出演者:2名]

ピアノとのデュオで、CD収録曲を中心に、チェロのための大曲から小品まで多彩なラインアップ。

② 室内楽 [出演者:3~8名]

弦楽四重奏やピアノ入りの室内楽など、水野由紀と同世代の音楽家で結成。お互いに並々ならぬ情熱を傾けて切磋琢磨するフレッシュなアンサンブル。



©Shingo Azumaya

《メッセージ》

下記は、2012年CDリリース時に寄せられたメッセージです。なお肩書は2012年時ものになります。

【水野由紀に寄せて】

水野由紀さんへの期待

先日見知らぬ方から「私は水野さんの演奏が大好きなのです。最近音にも逞しさが感じられるようになりましたし」と声をかけられました。

どちらかという華奢な身体からのほとぼしり出るような音楽性と豊かな音量。一曲一曲に込められた素晴らしい独創性と共に真に大器の片鱗を感じさせられます。

大変な努力家でもあられる水野さんがこれからチェリスト、音楽家として何処まで成長されて行くのか本当に楽しみです。

チェリスト
桐朋学園大学学長
サントリーホール館長
堤 剛

【水野由紀さんのCDによせて】

数年前、あるオーディションで彼女のチェロの演奏に触れた。まだ、二十歳前だったと思う。その時の印象、それは素晴らしい才能を持ち合わせていることを確信したというだけでなく、人としての魅力、スケールを大きくアピール。それ以来、かげながら応援させて頂いている。小柄でチャーミングな彼女からは想像できないようなダイナミックな演奏、そして思慮深い音楽。また、“あたって砕けろ!”的な物怖じしない思い切りの良さ。これは厳しい音楽芸術の世界を生きぬいていく為の大切な要素の一つ。

今回のデビュー CDは、彼女の大学生生活を締めくくる大きなチャンスであり、音楽家としてのスタートラインに立てたこと、そして輝かしいチェリストとしての未来に、心からの大きなエールを送りたい。今年2月、被災地である宮城県七ヶ浜での山形交響楽団との初共演、あの心を打つ演奏がいまだに忘れられない...

東京交響楽団正指揮者
山形交響楽団音楽監督
ドイツ・ヴェルテンベルクフィル首席客演指揮者
飯森範親

水野由紀(チェロ) Yuki Mizuno



© Yoshinori Kurosawa

桐朋学園大学卒業後、同大学研究科修了。

これまでに宮崎国際音楽祭、JTアートホール室内楽シリーズ等数々のコンサートに出演。

2012年、東日本大震災チャリティー公演として飯森範親氏指揮・山形交響楽団と共演、好評を博す。同年、大学在学中に〈メンデルスゾーン／チェロ・ソナタ 第2番 二長調 Op.58〉をメインとした「Yuki Mizuno」(オクタヴィア・レコード)でCDデビュー。本作はのびやかな歌心と丹念な表現で高い評価を得、クラシックの新人演奏家の作品としては異例の売り上げを記録した。

2013年、大曲〈シューベルト／アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D.821〉を主軸に据えた意欲作としてセカンドアルバム「アルペジオーネ・ソナタ」(同上)をリリース、JTアートホール アフィニスにて記念リサイタルも開催。ともに各音楽誌・新聞に取り上げられ、大きな反響を呼んだ。

2014年2月、ヤマハホール・コンサート・シリーズにおいて恩師である堤剛氏と共演し好評を博した他、同年11月、2015年9月には「古川展生 Produce スーパー・チェロ・アンサンブル」にも日本の若手チェリストを代表する1人として出演。2014年11月ピアノ・トリオCD「メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第1番／ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲『大公』」(同上)をリリース。同年12月には飯森範親氏指揮・日本センチュリー交響楽団と協演し〈ハイドン／チェロ協奏曲 第2番 二長調 Hob.VIIb-2〉他にてソリストを務め絶賛された。また関西フィルハーモニー管弦楽団にゲスト首席として度々招かれており、ソロ・室内楽・オーケストラ等、一層意欲的に活動の幅を広げている。

2015年9月3枚目となるソロ・アルバム「ハイドン：チェロ協奏曲 第2番／ブルッフ：コロ・ニドライ 他」をオクタヴィア・レコードよりリリース、同年10月にはアルバム・リリースを記念し、ヤマハホールにおいて「記念リサイタル」を開催した。

これまでにチェロを堤剛氏、菊地知也氏に、室内楽を徳永二男氏、藤井一興氏に師事。

霧島国際音楽賞受賞。

若手実力派チェリストとして確かな評価を得るとともに、その将来に大きな期待を寄せられている。

【オフィシャルHP】 <http://www.1002.co.jp/yukimizuno/>

【ブログ】 <http://ameblo.jp/yukim-vc/>

《ディスコグラフィ》

「水野由紀—メンデルスゾーン：チェロ・ソナタ 第2番 他」



演奏=水野由紀(チェロ)、菊地祐介(ピアノ)

OVCL-00475

EXTON

発売 2012年11月21日

定価 ¥3,000

「水野由紀—シューベルト：アルペジオーネ・ソナタ、
ショパン：序奏と華麗なるポロネーズ 他」

演奏=水野由紀(チェロ)、干野宜大(ピアノ)

OVCL-00526

EXTON

発売 2013年11月20日

定価 ¥3,000

「メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第1番、
ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲『大公』」

演奏=松本 蘭(ヴァイオリン)、水野由紀(チェロ)、
村松亜紀(ピアノ)

OVCL-00556

EXTON

発売 2014年12月19日

定価 ¥3,000

「水野由紀—ハイドン：チェロ協奏曲 第2番／ブルッフ：コロ・ニドライ ほか」



演奏=水野由紀(チェロ)、飯森範親(指揮)、
日本センチュリー交響楽団、須関裕子(ピアノ)

OVCL-00566

EXTON

発売 2015年9月18日

定価 ¥3,000